



学校だより

薫る双葉

～チームワーク・フットワーク・ネットワーク～

令和8年7月10日

第7号

前号に引き続き、校外学習や〇〇教室で学びを得た、児童の感想紹介第5弾です。

6月25日 6年生 「救急法講習会」

今回の救急法で学んだ事は、人工呼吸と心肺蘇生、AEDの使い方です。心肺蘇生法は、意外と力がいりました。とても疲れたけど、友達がいっしょにおしてくれたおかげで1回目をおせしました。人工呼吸は、最初やり方や手順を理解するまで時間がかかりましたが、お手本をよく見たら出来ました。AEDは、使い方と置いてある場所がわかりました。教えてもらったことを生かして生活できたらいいなと思いました。

【6年1組 加瀬 葵 さん】

私は救急法講習で、心臓マッサージや人工呼吸、AEDの仕組み、使い方などを学びました。少しだけ心臓マッサージはしたことがあるものの、くわしく習ったり、人工呼吸の仕方を習ったりしたことはなかったなので、この学習で学べて良かったです。また、街などで倒れている人を見かけたら、この学習で学んだ救急法を生かして、迷わず困っている人を助けたいと強く思いました。そして、救急法をいざという時に使えるようにわすれないようにしたいです。

【6年2組 中川原 誠太 さん】

7月6日 4年生 人権教室

今日見た「プレゼント」は、最初は真理だけがいじめられていて、美由紀の誕生日プレゼントにあやが約束とはちがうものをあげたことがきっかけで、あやも美由紀からいじめられ学校に行けなくなり、真理がおみまいにきてくれて仲良くなるというお話です。ある日美由紀が大切にしていた犬のコロがいなくなってしまう、いじめられていたあやと真理はコロを見つけることに協力しました。そして、みんな仲直りをしました。これからぼくも、いじめちゃったら、やられているがわの気持ちを考え、すぐにあやまろうと思いました。

【4年2組 柳 佳太郎 さん】

今日、人権教室で学んだことは、自分たちがふざけていたり、おもしろがってやったり軽い気持ちでしたことが、相手にとっては、いやな思いをして傷ついているかもしれないということです。あと、もし自分がいじめられても、いじめで返さないことが大切だと思いました。いじめに、いじめで返してしまうと、終わりがいいだけでなく、相手もさらにいやな気持ちになります。これからは、友達としゃべっている時に相手が傷つかないように、言葉をよく考えてから話そうと思います。

【4年1組 中村 圭那 さん】

人権啓発ビデオ「プレゼント」について

4年生の「人権教室」は、法務省や公益財団法人人権教育啓発推進センターが制作した人権啓発ビデオ「プレゼント」の視聴を基にした、授業形式で行われました。

「プレゼント」は、小学4年生の綾香と美由紀の友情とすれ違いを通じて、いじめや思いやりの大切さを描いた作品です。

おおよそのストーリーは次のようなものです。

「綾香は同級生の美由紀の誕生日に手作りの写真立てをプレゼントします。しかし、美由紀の好みではなく気に入らなかったため、腹を立てた美由紀は綾香を無視するようになり、クラス中を巻き込んだ仲間はずれ（いじめ）へと発展していきます。相手を思う気持ちがすれ違うことから起こる心の葛藤や、誰もが「いじめている」という自覚を持たないまま人を傷つけてしまう怖さを、児童の視点から問いかけるストーリーです。」

HP でも学校の様子をご覧いただけます <https://www.city.choshi.chiba.jp/edu/school/es-futaba/>

☆ 学校からのお願い ☆

唐突ですが、私はしばしば自分の星占いの結果を見比べることがあります。
以下は、とある日の星占いの結果です。

9位 年上の人と衝突しそう。よく話を聞くと、一理あるのがわかる時。お互いに納得のいく妥協点を探すのがベスト。 ラッキーカラー：黄色 ラッキーのカギ：古美術

1位 集中力が高まり作業が快調に進む日。周囲と協力してさらにスピードUP。
アドバイス：新製品について話す ラッキーパーソン：野球ファンの人
ラッキーポイント：南の島の画像 ラッキーカラー：ブルー

10位 出足悪くても好転の兆しあり
ラッキーカラー：白 ラッキーアイテム：履き慣れた靴

順位やコメント、ラッキーアイテム、ラッキーカラーと、占いによって見事に違います。こんなとき、皆さんならどうしますか？一番良い順位の占いを信じますか？それともそれぞれの占いのいいところ取りでしょうか、あるいは一番良くない占いを信じて慎重に行動するタイプでしょうか？

これは、自分のイメージしているものを相手も同じようにイメージしているとは限らないという一例です。このように、物事の見方や考え方は一律ではなく、その人の生活環境や経験によって育まれ、そこから、自分の中の「常識」が確立され、「言葉」の意味も決まってきます。

そう考えると、「言葉」はとてもあいまいで、思い込みによって意味が大きく変わることもあります。そのことを理解しておけば、勘違いや思い込みというものが減るのではないのでしょうか。

「十人十色」と言われるように、性格やものの考え方、とらえ方などは人によってそれぞれ異なります。当然、同じように聴いている会話でも、聴く人によってそのとらえ方が違うということになります。肯定的にとらえる人、否定的にとらえる人。ポジティブにとらえる人、ネガティブにとらえる人。自分に都合の良い所だけを信じ、都合の悪いことは耳に入らない人。

そして、言葉のとらえ方は、人間関係によっても変わります。好意があれば肯定的に受け取るでしょうし、苦手意識があれば否定的に受け取ってしまうかもしれません。

また、聴いたことを伝える際も、伝える側の表現力は人それぞれですし、日々の生活環境によっても、使う言葉や理解のズレが生じることがあり得ます。

そこで、大事にしなければならないのは、いかに「客観的にとらえ、正確に理解し、判断や表現できるか」です。そのためには、一人のあるいは大きく声を上げている人の考えだけを鵜呑みにせず、できるだけ多くの人から話を聴き、判断材料を集め、客観的に考え、情報を取捨選択し、自分の答えを導き出す必要があります。

その場で聴いていけば（直接的）、言葉の意味を客観的にとらえ自身で判断ができるかもしれませんが、又聞き（間接的）だと、間に入った人の主観が入るため、判断を間違える可能性があります。そんな時こそ、客観的かつ冷静に判断できる力が必要ですし、子どもたちには、そのような力を身に付けてほしいという願いがあります。ところが、小学生は人生経験も浅く、表現力も大人には及びません。これは当然のことです。

そこで、保護者の皆さんにお願いです。夏休み中は、今まで以上にご家庭で語らう時間を作ってください。そして、語り合う中で、保護者の方の経験をどんどん伝えてください。祖父母、父母、兄弟、姉妹等、多くの人が集まれば集まるほど、多くの見方・考え方の違いに触れることができます。

本校職員は、「こんな児童になってほしい。」「こんな力を身に付けてほしい。」「今、この児童にとって必要な指導・支援は何か。」など、常に考え、意識し、機会あるごとに児童に伝えていますが、ご家庭ではそのようなお話をしたことがありましたでしょうか？

「しっかりと学校のことは話し合っているよ。」というご家庭もあれば、「そうか。じゃあもっと学校のことを話し合わないといけないな。」というご家庭もあるでしょう。そうです。これが言葉の受け取り方の違いです。

受け取り方の違いを理解し合うには、「話し合うこと」が必要です。話し合いによって、お互いの考え方について理解が深まります。また、相手に自分の考えを正確に伝えるにはどうすれば良いかを考えながら話すことで、コミュニケーション能力をはぐくみ、表現力を高めることができます。そして、多くの違いに触れる中で判断力を育むことができると考えます。

夏休みは、家族団らんの中でこの話題についても話し合ってみてください。